



キャッチフレーズ

見て 触れて 出会いの笠寺

事業実施の背景

笠寺観音商店街は、名鉄本笠寺駅や魅力ある核店舗、笠寺観音を始めとする豊富な地域資産に支えられ、かつてはにぎわいあふれる商店街であったが、地下鉄桜本町駅の開設や環状線による街区分断、有力核店舗の撤退等により、活力が低下している状況にある。こうした中、平成17年から、区内の大学や高校と連携、協働して、商店街・地域マップやポスターデザインの制作、新規イベントの開催など、商店街の再生に向けて様々な取組みを進めている。

事業の概要

【学生との連携による各種事業】

大学生による商店街・地域マップ、ポスター製作

大学生のデザインによる「商店街・地域マップ」。商店街イベントや店舗の推奨商品、笠寺観音を始めとする地域の情報を掲載して、イベントチラシにも活用。また、ポスターデザインは学生の笠寺観音商店街に対する思いやメッセージを、1つのビジュアルと1行のコピーで表現したもの。イベント会場への展示や、店舗に掲出している。

地域資産を活用したPRイベントの開催

商店街では、夏と冬の年2回、路上（旧東海道）においてPRイベントを開催していたが、平成17年から笠寺観音の境内においても開催。大学生や中学生によるライブ演奏・小学生ハンドボール教室や六の市の臨時出店が行われ、大いに賑わっている。



新規イベントの開催、新商品の試作

18年度には高校からの提案で、年末大感謝祭の際に、生徒自らが地域の歴史性を活かした灯りを製作し、「和紙の灯り展」を開催。また、笠寺観音の節分行事の主人公「鬼」を活かした「鬼まんじゅう（商品名：鬼まんちゅう）」を試作。現在は単一商品の開発にとどまらず、幅広い商品展開や商店街のイメージ作りに活用するため、「鬼」と対となる「福」とセットでコンセプトやキャラクターを再構築し、その活用に向けた取組みを進めている。



この他にも、このほかにも、地域のまちづくりに興味のある人が集まる「かんでらmonzen亭」と連携して、空き店舗をアートスペースに活用したり、境内の清掃活動等を行っている。

事業の効果

- ・ 商店街にとっては、若者の新鮮な提案は、商売の基本、初心を思い起こすものがあり、何よりも、若者のパワーに組合員が刺激を受けている。
- ・ 大学生・高校生にとっても、これら商店街活動に関わることは、職業の大切さを学ぶなど、実践的教育として意義ある活動となっている。

事業の課題

大学・高校との連携事業を継続させるとともに、地域住民との連携の輪を広げ、笠寺観音など豊富な地域資産を活用し、まちのにぎわいづくりにつながる活動を展開していく。

商店街の基本データ

名称：笠寺観音商店街振興組合

理事長 伊藤邦一

所在地：〒457-0051

名古屋市南区笠寺町西ノ門53-2

電話：052-822-0885

構成員：約60名

URL：<http://www.minamix.net/kasadera/>

